

【全体概要】

浮皮果の発生が少なく、食味の良好な‘きゅうき’の栽培管理方法を確立し、面積の拡大を図る。
また、実需者(卸売市場等)との連携により、年末～年明けの個性化商品を開発し、産地ブランド力の向上につなげる。

新品種・新技術等の概要

【温州ミカンの新品種‘きゅうき’】

温州ミカンでは、秋期から収穫期にかけての温暖多雨により、浮皮や果皮障害の発生が問題となっている。

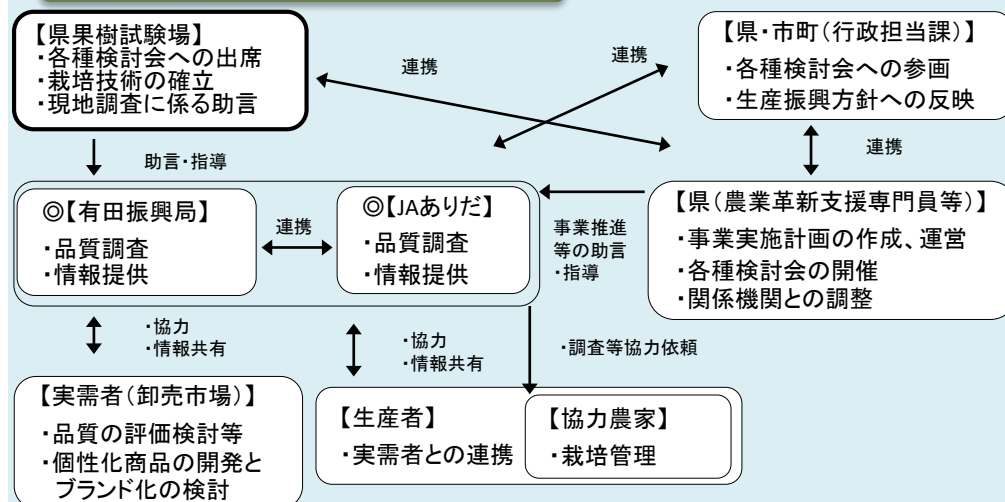
そんな中、浮皮が少なく、じょうのう膜の薄い食味良好な‘きゅうき’が、平成26年2月に品種登録された。

そこで、先行して導入した栽培園地において基礎データを収集し、栽培管理方法を確立し、高品質安定生産を図る。

また、実需者(卸売市場等)との連携により、年末から年明けの個性化商品の開発を検討し、産地ブランド力の向上につなげる。



実施体制図



主な取組内容

- ① 品種の特性把握
 - ・生育状況(16園)、果実品質(10園)の調査
 - ・透湿性シート被覆による簡易貯蔵試験
 - ・調査データをもとにマニュアルを作成
- ② 検討会の開催
 - ・調査結果報告会、試食検討会
- ③ 県外産地の情報収集
 - ・園地及び貯蔵時における品質保持対策について
- ④ 実需者への試食聞き取り調査



マニュアル

実績と今後の展開

【実績】

品種の特性把握、市場適応性の確認

- ・本品種の導入により、浮皮の発生が軽減できることを確認
- ・簡易貯蔵により、40日程度の品質保持が可能であることを確認
- ・消費地において、実需者に試食をしてもらい直接意見を聴取
- ・品種の特徴と栽培の注意点をまとめたマニュアル作成・配布

【今後の展開】

・本品種の導入により浮皮の発生が軽減できることを確認できた。
また、年末から年明け個性化商材として売り出していける可能性も確認でき、今後、これらの成果をもとに産地への波及を図っていく。